



発行：玉琳山 天寧寺
〒460-0018
名古屋市中区門前町3-21
TEL 052(321)5865
FAX 052(324)8079
メール tenneiji@road.ocn.ne.jp
URL https://www.tenneiji.net
郵便振替 00870-1-30614
発行人：副住職 大野俊人

Instagram
@tenneiji

謹賀新年

令和五年の初春を迎え、謹んで新年のお祝辞を申し上げます。
ご家族の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたしております。



あけて嬉しいのはお正月、あけて悔しいのは玉手箱。竜宮城で楽しい日々を送った浦島太郎も、乙姫さまに渡された玉手箱を開けたばつかりに、アツという間におじいさん。しかし、人生万事そんないいことばかりは続きません。
瀬戸内寂聴さんは、自分の身に

いいことばかり続くときは「こんなことは続くはずはない」と覚悟すること。逆に、何をやっても駄目な時も「こんなことは続くはずはない、今にいいことがある」と自分に暗示をかけるよう言われておりました。

平和な時代があつても、それが長く続くとは限りません。突然、災害や戦争が起き、未知な感染症に脅かされる不安な日々が続いても、ずっと泣いてばかりいるかという、そうでもありません。少しずつ元氣を取り戻して人間は立ち上がっていきます。この世は無常だから同じ状態は続きません。必ず変わっていきます。まさに仏教という「諸行無常」です。

どうしても、人は悪いことはすぐに終わり、いいことが永遠に続いて欲しいと願ってしまいます。幸せな瞬間は沢山あったとしても

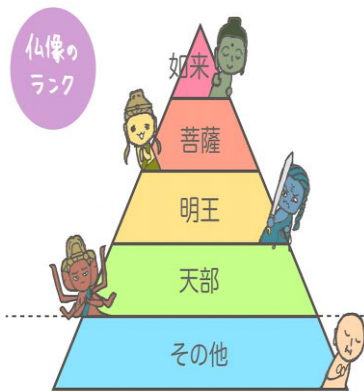
永遠に続く幸せはあり得ません。仏教に限らず易でも、いいことは悪いことの前兆であるから十分に気をつけよと教えています。「諸行無常」というのは、いい

ことも悪いことも、全てを総じて長くは続かないことをこの世の真実として改めて私達に教えてくれています。

今年の干支は癸卯です。「寒気が緩み、萌芽(物事が起こる兆候)を促す年」を意味します。コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中に、そろそろ希望の芽が咲く春がやってきそうです。

皆様にとって、本年が素晴らしき年であることを心よりお祈り申し上げます。

日本の仏様



一般に仏様と呼ばれている存在を限定して言えば如来です。如来とは、真理の世界から来られた者、すなわち悟りを開かれた者といふことです。おもに釈迦如来、阿弥陀如来、薬師如来、大日如来がおられますが、仏様の基本となつたのは、実在したお釈迦様のお姿です。大日如来を除き、お釈迦様の現身の姿を模して、螺髪・肉髻の頭部に一枚の衣を纏うのみの質素なお姿です。

それに対して菩薩は、頭に宝冠をし、瓔珞などの装身具や様々な持ち物を持つておられるのですが分かります(地藏菩薩のみ僧のお姿です)。菩薩は、菩提薩埵を略した名前で、菩提(悟り)を求め仏の位にのぼろうとして修行すると同時に、衆生(生命のあるすべてのもの)が菩提に到るまで自らは仏と成らず、衆生を利益するという誓願のもとに活動しています。

明王とは、古代インドのヒン

ドゥー教の神々が密教の教えの中に取り入れられ、大日如来の化身として世の人々を救う仏様。憤怒

(激しい怒り・憤り)の表情をして武器や蛇、ドクロなどの物騒なものを持っているのは、正しい教えを聞き入れることもできないほど煩惱にとらわれた者を救済するためです。姿は恐ろしくても人のために尽力しています。

天部とは仏教を守護する神々、如来や菩薩のボディガードです。四天王(東方を守護する武神の持国天、南方は憤怒の様相の増長天、西方は悪人を罰する広目天、北方は財宝を司る多聞天(毘沙門天))や、薬師信仰を守護する十二神将など様々です。自然現象や抽象的な概念を人格化したものも多く、半身半獣などもあります。大黒天や弁財天など七福神もここに属しています。

それ以外には、お釈迦様の弟子の羅漢や祖師、仏教に大きな役割を果たした聖徳太子の像なども仏様に含まれます。

「因果の道理」

歴然として私なし



この言葉は『修証義』第一章に出てくる、道元禪師の言葉です。仏教の教えで一番基礎になるのが「因果の道理」です。これは自分の都合でどうにかできるものではないということです。自分にとつて都合なことも不都合なことも、自分の都合に一切関係なく発生し何かしらの結果をもたらします。

ものごとには必ず原因があり、原因の無い結果はありません。また、良い原因には良い結果が生じ、悪い原因には悪い結果が生じるとも説かれています。因果というのは、ものごとの原因と結果ということであり、もう一つ因果という言葉もよく使われ

ます。因果というのは、原因ときっかけということ、ごく当たり前の道理なのです。私達は因果によって生じ、因果の中で生き、因果によって死にます。自分の意志で判断し決定して生きているように見えても、私達の意志や行動は、結局は因果に支配されて、その中で決定されています。私たちは、自分の意志に合う因果が生じることによって、意志や行動を決定していることになりません。自分の意志によって善き因果をつかむことが出来るのです。

決して運命に翻弄されているだけの人生ではありません。そこには道の選択・決断という問題が生じてきます。それが、その人の人生の岐路になることもあります。すべては私たち一人一人の心がけ、生き方次第なのです。つまり「因果応報」善いのも悪いのも、自分が受ける結果のすべては、自分が作るものです。

言葉の一つで人は変わる

お釈迦様は「言葉ほど気をつけなければいけないものはない」と言われております。



言葉には、とても大きな力が隠れています。たった一言、何気ない言葉を言っただけで、周りの人を元気にして癒しにもなり、時には傷つけ武器にもなります。様々な影響を与えることがあります。同じ一言でもその人を立ち上げさせる場合もあれば、死に追い込む場合もあります。

永平寺六十七世 北野元峰禪師が刑務所へお話に行かれた時に、壇上にながられた老師は涙をポロポロ流しながら「この馬鹿野郎どもめが！」と大喝一声されました。そのあとに「お前達のお母さんはお前達をこんな所へ送り込むために生み育てたと思うか！二度とこ

んな所へ来るんじゃないぞ！」と言つて壇を下りられたそうです。

この言葉を聞いた受刑者は、刑務所に二度と戻つて来なかったそうです。「馬鹿野郎」の一言も、

言つた人の人格や心が声に出ます。愛の極みの一言か憎悪(ひどく憎む)の一言かは文字では分かりま

せが、愛から出た言葉か憎しみから出た言葉かで同じ「馬鹿野郎」でも言葉の響きが違ってきます。

ところで、ある老人ホームで叱ることや否定的な表現を使うことを一切やめて、一つでも出来たことを褒めることにしたら、利用者

は自分の居場所を見つけ、自信に繋がり、自己肯定感が高まり、帰宅願望の訴えも減ったそうです。

子どもに対しても言葉はとても大切です。愛知専門尼僧堂長 青山俊董老師は「子どもにクズはな

な言葉をあびせて育てると「本当にダメになつてしまふ」と言われておりました。

普段から子どもに対して、自己肯定感や自尊心を傷つけるような、人格否定な言葉、能力否定な言葉、存在否定な言葉はやめて、一つでも出来たら「やれるじゃないか」

と褒めて認めてあげるような、肯定する言葉を贈つてあげて下さい。一番良いのは子どもの存在そのものを肯定し認める言葉です。「あなた

のことが大好き」「あなたがいてくれるだけで幸せ」「あなたは私達の宝物」こういった言葉を、日頃から繰り返し贈つてあげて下さい。そうすれば、子どもの自己肯定感が大いに高まりますし親子関係も非常に良くなります。

また、子どもに「お父さんは、いつも帰りが遅い」「家事を手伝つてくれない」など、母親が言う父親に対する愚痴を毎日聞いていた子どもは「お父さんは自分勝手な人だ」と思い込み「お父さんは、いつもお母さんを苦しめている」と、時には憎悪を持つこともあるでしょう。子どもは父親への

不満のみを受け取つてしまっています。ついつい口からこぼれる愚痴かもしれません。子どもの心にも与える影響は、思っている以上に大きいかもしれません。

自分と向き合う時間を大切に

「自己」とは何か？とても大きな問題です。分かり易いように捉えどころがないこの問いは、禅宗の僧侶においても一生涯の命題です。その問いの答えとして実践されてきたのが坐禅修行です。

身体を調える (調身)

呼吸を調える (調息)

心を調える (調心)

この三つは坐禅の基本です。身体と呼吸と心は独立しているのではなく相互に影響し合っています。つまり、身体(姿勢)を調べ、呼吸を調べると、心が調います。

道元禪師が坐禅について著された『普勸坐禅儀』の中にこのような一節があります。「須らく回光返照の退歩を学すべし」。

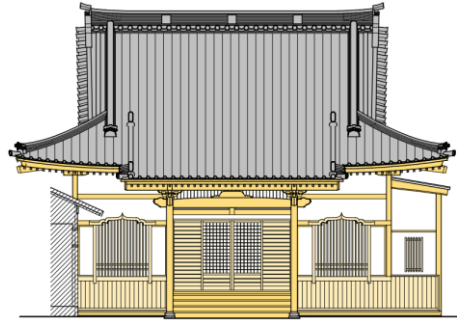
私達は自分が思い通りにならな



いことがあつたときに自身の外に目を向け原因を探し、解決の糸口を見いだそうとします。そうした外に向かう心の働きを内側に向けて、つまり反省へと転じることを「回光返照」と言います。それが「退歩」とも言っています。

とは退化ではありません。ものごとの根本に立ち戻ることです。つまり、自己を見つめ直し、本来の自分自身に立ち返り、あるべき生き方を再構築する、そのような坐禅のありようを言つておられます。坐禅ばかりが修行ではありません。読経や写経などの実践、あるいは作務(掃除)や食事、その他、日常の様々な一コマにおいて、真摯に打ち込み、自分自身と向き合うのが禅の価値観と言えます。日常生活の様々なシーンにおいて、一つ一つ丁寧に、それが私達自身と向き合う時間でもあります。天寧寺では毎月二十八日に写経会を開催しております。椅子坐禅をして心を調べてから、写経や読経修行を行い、自分と向き合う時間を設けていただいております。

本堂改修工事 志納者募集



*改修後の天寧寺本堂イメージ



*改修後の位牌堂のイメージ

令和五年一月より本堂の耐震改修工事を行います。現在の本堂は、戦後に建てられ六十五年の年月が経過しており、瓦の劣化が激しく震度六弱程度の地震で倒壊の可能性のある危険な状態です。

十四年前に床下の改修工事をしました。今回は屋根を全面改修

し屋根瓦を乾式で葺き直し軽量化。本堂内に耐力壁を数カ所新設し、屋根裏に筋交いを設け耐震補強を行います。雨漏りがひどい本堂奥の位牌堂の改修と拡張、畳の全面張り替え、須弥壇を新調し、三宝殿にエアコンも新設します。

本堂改修工事の総工費見積りは四千五百八十万円です。

つきましては、檀信徒の皆様をはじめ、有縁の方々に、御志を頂戴したくお願い申し上げます。どうぞ、ご協力をお願い申し上げます。

また、同時期に別工事で、本堂の東側にバリアフリーで本堂まで行ける客殿と庫裏、将来を見据え納骨堂を建設します。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくご願ひ申し上げます。

(郵便振替 00870-1-30614 宗教法人 天寧寺)

本堂改修工事 浄財寄進者御芳名

- 金貳拾万円 久保 重明 殿
- 金壹拾万円 市野 正人 殿
- 金壹拾万円 高田 輝美 殿
- 金壹拾万円 水野 恵津子 殿
- 金八万円 豊島 育子 殿
- 金五万円 野田 俊 殿

ご芳志に心より感謝申し上げます

令和五年 年回表

一周忌	令和四年
三回忌	令和三年
七回忌	平成二十九年
十三回忌	平成二十三年
十七回忌	平成十九年
二十三回忌	平成十三年
二十七回忌	平成九年
三十三回忌	平成三年
三十七回忌	昭和六十二年
四十三回忌	昭和五十六年
四十七回忌	昭和五十二年
五十回忌	昭和四十九年

*本堂改修につき八月までは、客殿で法事をお勤めさせていただきます。

令和五年 行事予定

- 三月二十一日(火)春分の日
春彼岸会墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
 - 八月十一日(金)山の日
お盆墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
 - 八月十七日(木)十三時
施食会(天寧寺本堂)
 - 九月十八日(月)敬老の日 十三時〜
永代経(天寧寺本堂)
「永代経」申込者の合同供養です。永代供養墓に納骨されている方のご供養ではございません。
 - 九月二十三日(土)秋分の日
秋彼岸会墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
 - 十二月十五日(金)九時〜十四時半
三宝大荒神 大祭(天寧寺三宝殿)
- *永代供養合同供養は、十三時〜合祀墓 十三時十五分〜個別墓 十三時半〜樹木葬

名古屋千種区 平和公園内 天寧寺霊苑

永代供養墓

樹木葬 二霊 五十五万円



*個別区画へ最終納骨後17回忌経過しましたら樹木(ハナミズキ)の下へ合祀 合祀後も永代供養改葬での納骨も承ります

個別墓 二霊 六十八万円



*五輪塔型個別墓へ最終納骨後33回忌経過しましたら永代供養合祀墓へ合祀 合祀後も永代供養改葬での納骨も承ります

合祀墓 一霊 二十五万円



*皆様のご遺骨と一緒に合祀墓へ納骨 墓誌に戒名等を彫刻し永代供養(墓誌への彫刻無は20万円)改葬での納骨も承ります



平和公園の入口の好立地で緑や花に囲まれた明るい霊苑です
新規墓地区画募集中
※檀信徒様以外も使用可能です宗派不問
詳しくはHPまで